

## 新型コロナウイルスの流行による経済危機の概況と見通し

2020年4月8日

計量分析ユニット 相澤なつみ

新型コロナウイルスの流行に端を発する社会的混乱は、歴史的な危機の様相を呈してきた。国際通貨基金(IMF)のゲオルギエバ専務理事は4月3日、2008年の世界金融危機よりはるかに悪い状況であるとの警告を行った。政府は7日、緊急事態宣言を発令し、蔓延防止策の強化に乗り出す。

各研究機関は3月後半にかけて更なる経済見通しの下方修正を行い、リーマン・ショック以上の経済危機という見方を強めている。IMFは4月中に最新の見通しを公表する予定で、2020年の世界実質GDP成長率は2009年の-0.4%減以来11年ぶりのマイナス成長を見込む。国際金融協会(IIF)は3月23日、世界の実質GDP成長率が-1.5%に落ち込むとの見通しを発表した。2020年後半には外出抑制が緩和され、消費や投資が回復する前提のもと、既に景気後退局面入りしていたEUで-4.7%、米国-2.8%、日本-2.6%、中国+2.8%と予測している。

日本経済は、国内シンクタンクの見通しでは2020年度の実質GDP成長率を-1.0%から-4.0%程度と想定している。世界同時不況による輸出入の減少と、外出自粛による個人消費の冷え込み、設備投資の総崩れにより、2009年の実質GDP成長率-5.4%に迫る見込み。また都市封鎖による経済損失は南関東の一个月間の封鎖で8.9兆円程度との試算がある。

個人消費は、クレジットカードの取引データによるJCB消費NOWによれば、3月前半の総合消費指数は前年同月比-7.7%と、計測開始(2016年)以降最大の下げ幅を記録した。小売(同-6.2%)、サービス(同-9.0%)で、遊園地(同-53.1%)、映画館(同-20.1%)が大幅に下落した一方、スーパー(同+14.0%)、酒屋(同+6.5%)、喫茶店・カフェ(同+5.1%)は上昇した。

企業部門の景気判断(DI)は、帝国データバンクによる約2万社(有効回答1万1,330社)を対象とした景気動向調査によれば、2020年3月は2002年調査開始以来過去最大の下落幅で、全10業界51業種が悪化した。業界別では不動産(前月比-10.4p)、サービス(同-9.8p)、金融(同-8.9p)、小売(同-7.4p)の下落が目立った。不動産は、商業施設の賃料収入減少や、住宅設備機器の輸入断絶が起因し、金融は原油価格や株価下落の影響を受けた証券投資業や、損害保険代理業が悪化した。

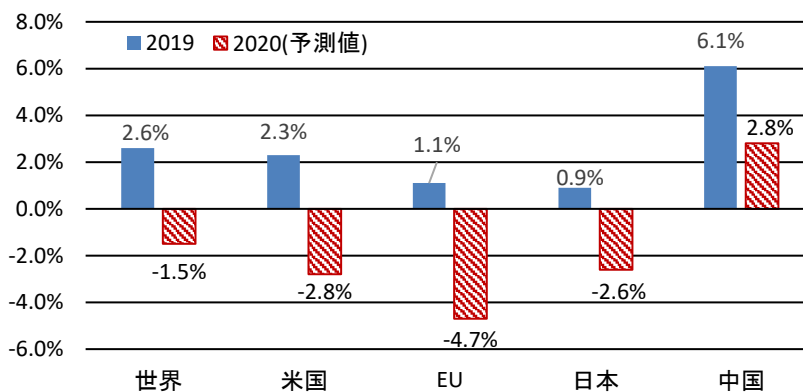
企業規模別では、建設を中心に大企業が同-7.2pと悪化し、次いで小規模企業(同-6.5p)、中小企業(同-6.0p)となった。地域別では北海道(同-8.0p)、南関東(同-7.0p)で悪化しており、うち東京は同-7.8pとなった。

製造業の景況感は、購買担当者へのアンケート調査に基づく購買担当者指数(PMI)が、3月時点で2009年以来の減少率となる44.8となり、2011年4月以降の東日本大震災並みの水準となった。日系自動車メーカーは乗用車メーカー8社すべてが4月中の操業停止あるいは稼働の減少を決めており、再稼働の目途は立っていない。

外需は、貿易統計の速報によれば、3月上中旬分の輸出(通関ベース)は前年同期比5.9%減、輸入も同7.8%減であった。なお2月の貿易統計は、中国からの輸入が前年同月比-47.1%と大きく減少し、EU(同-15.7%)、米国(同-6.8%)と続き、全体で輸入は同-13.9%、輸出は同-1.0%であった。低油価の影響で鉱物性燃料も同13.4%減となった。

緊急事態宣言の発令により経済活動の一層の縮小が見込まれ、日本経済の景気後退は避けられない局面となっているが、事態の収束を期待しつつ影響を引き続き注視したい。

#### 2020年の実質GDP成長率の見通し



(出典) IIF GMV Global Recession(March 23,2020)より作成

#### 業界別の景況判断(DI)

	2020年1月	2月	3月	(前月差)
農・林・水産	38.4	37.9	32.8	( -5.1)
金融	44.8	42.2	33.3	( -8.9)
建設	50.0	47.8	41.5	( -6.3)
不動産	45.9	42.0	31.6	( -10.4)
製造	37.6	34.9	30.3	( -4.6)
卸売	37.9	34.4	29.4	( -5.0)
小売	36.3	34.1	26.7	( -7.4)
運輸・倉庫	39.5	34.0	27.7	( -6.3)
サービス	49.5	45.1	35.3	( -9.8)

(出典)TDB景気動向調査(全国)2020年3月調査より作成

注：企業による7段階評価をもとに1社1票で算出。50より上であれば「良い」、下であれば「悪い」。